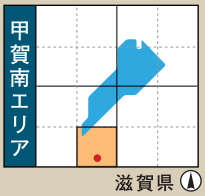
史跡
県指定

小川城跡（おがわじょうあと）

信楽町小川　昭和56年4月24日指定



小川城は山城・近江・伊賀を結ぶ要衝に築かれた城で、西の城・中の城・城山城の3城に分かれ、城山城が県の史跡に指定されています。城の前身は信楽荘に求められ、城主は、領主から派遣された荘官から、在地土豪の多羅尾氏に代わります。多羅尾氏は江戸時代を通し、世襲代官として大きな力を持ちました。

当時のできごと	
1333年	鎌倉幕府が滅ぶ
1583年	大阪城築城
1600年	イギリス東インド会社設立

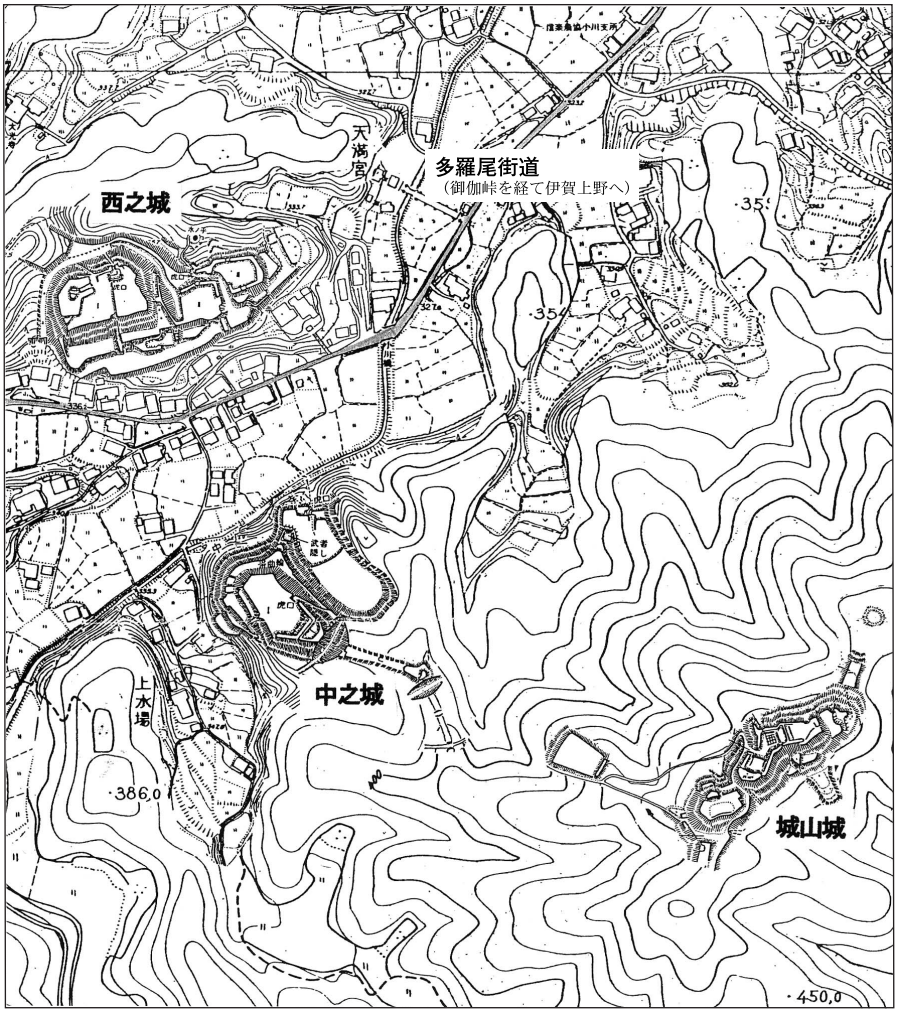
多羅尾氏について

多羅尾氏は、甲賀五三家に数えられる在地の土豪で、信楽荘の荘官として補任された鶴見氏を駆逐し、この地域を支配しました。

天正10年（1582）「本能寺の変」の際、徳川家康は滞在中の大阪から危機を脱するため、わずかな手勢で伊賀を越え三河に逃げましたが、その時に、多羅尾光俊が便宜を図ったことがきっかけとなり、台頭、一時豊臣秀次の切腹に連座し力を弱めるものの、すぐに勢力を回復し、現在の信楽町多羅尾を本拠地に世襲代官として近畿一円に大きな力を振るいました。

遺構の特徴

小川城の前身は、14世紀頃に築城されたと考えられます。現在残されている城の遺構は、西の城、中の城、城山城の3城からなります。このうち街道を挟むように築かれた西の城、中の城は、甲賀郡に一般的に見られる、土塁と空堀による方形郭を基調としますが、城山城は、石垣や礎石建物のある織豊系（しょくほうけい）の城郭です。これは織田信長の伊賀制圧に際し、大きく改造を施した跡をとどめているものと考えられます。



小川城位置図


主郭部礎石建物跡

城の形式

西の城

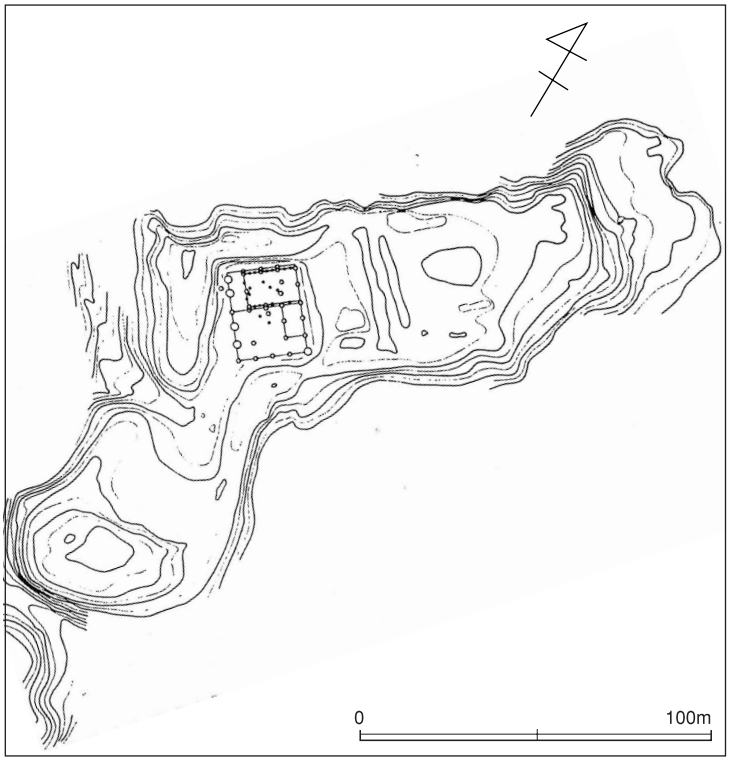
鎌倉時代の末に鶴見氏が築いた「小川西城」を前身とし、当初、四方を土塁で囲んだ方形単郭だった城を、東に郭を付け加え拡大し、今の形になったものと考えられます。

中の城

城山城のある尾根の先端に築かれた城で、尾根には4ヶ所の掘切りが設けられる他、街道に面した部分は中手川を水堀として用いるなど、地形を巧みに利用した縄張となっています。

城山城

標高約470mの山頂に築かれ、街道を眼下に見下ろすことができます。多数の郭が連続し、部分的に石垣が用いられています。発掘調査では、16世紀後半代の遺物が多数出土しており、「多羅尾家」文書に見える天正13年（1585）の改修の時期と一致します。



小川城主要部


小川城主郭虎口


小川城主郭の土塁

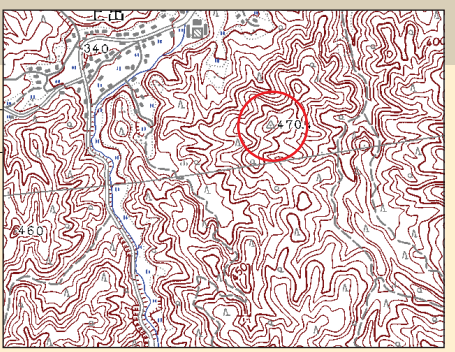
関連する文化財

甲賀城館群（甲賀全郡）	甲賀五三家を中心とした地侍達が築いた城郭群
多羅尾代官所跡（信楽町）	全国的にも事例の少ない世襲代官の屋敷跡

もっと深く知りたい

信楽町教育委員会	☎0748-82-8155　甲賀郡信楽町長野1203
安土城考古博物館	☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

小川城跡へのアクセス　信楽高原鉄道　信楽駅下車



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔滋賀県埋蔵文化財調査年報〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月